



京都市立堀川高等学校における 探究学習とその成果

令和6年2月5日

最高目標「自立する18歳」の育成

生きていくための知識・教養に裏付けられた判断力と行動力を備え、
人や社会と関わりあう中で育まれる想像力と創造力を活かし、
自他の存在や価値の尊さを感じつつ、
自己実現を図ろうとする生徒を育成する。

堀川高校グランドデザインより



「探究基礎」の目標（シラバスより）

- さまざまなものから疑問を発見し、検証可能な問いおよび仮説を立てることができる。
- 仮説を検証するための知識・技能を身につける。
- 事実の記述や主張を多面的・批判的に検討できる。
- 根拠や理由から答えを導くための論理性を身につける。
- 対話の有効性に気づき、必要に応じた形態で対話できる。
- 自分自身が経験したことを振り返り、身につけた力を自覚できる。



本校の特徴

「探究基礎」に限らず、学校行事・進路指導など教育活動のさまざまな場面において“探究”が軸になっている。

**すべては君の
「知りたい」から
はじまる**



探究基礎

(総合的な探究の時間)

HOP・STEP・JUMP・AcaPro



令和4年度からの探究基礎

1年前期

1年後期

2年前期

2年後期

「学びのアセスメント」
教科学習に探究的に取り組む
他者との交流

「探究基礎」HOP
興味・関心を広げる
探究を愉しむ

~~「探究基礎」HOP
探究の「型」を学ぶ~~

理数探究基礎
探究の過程を実践的に学ぶ

「探究基礎」STEP
少人数講座(ゼミ)
分野の専門性

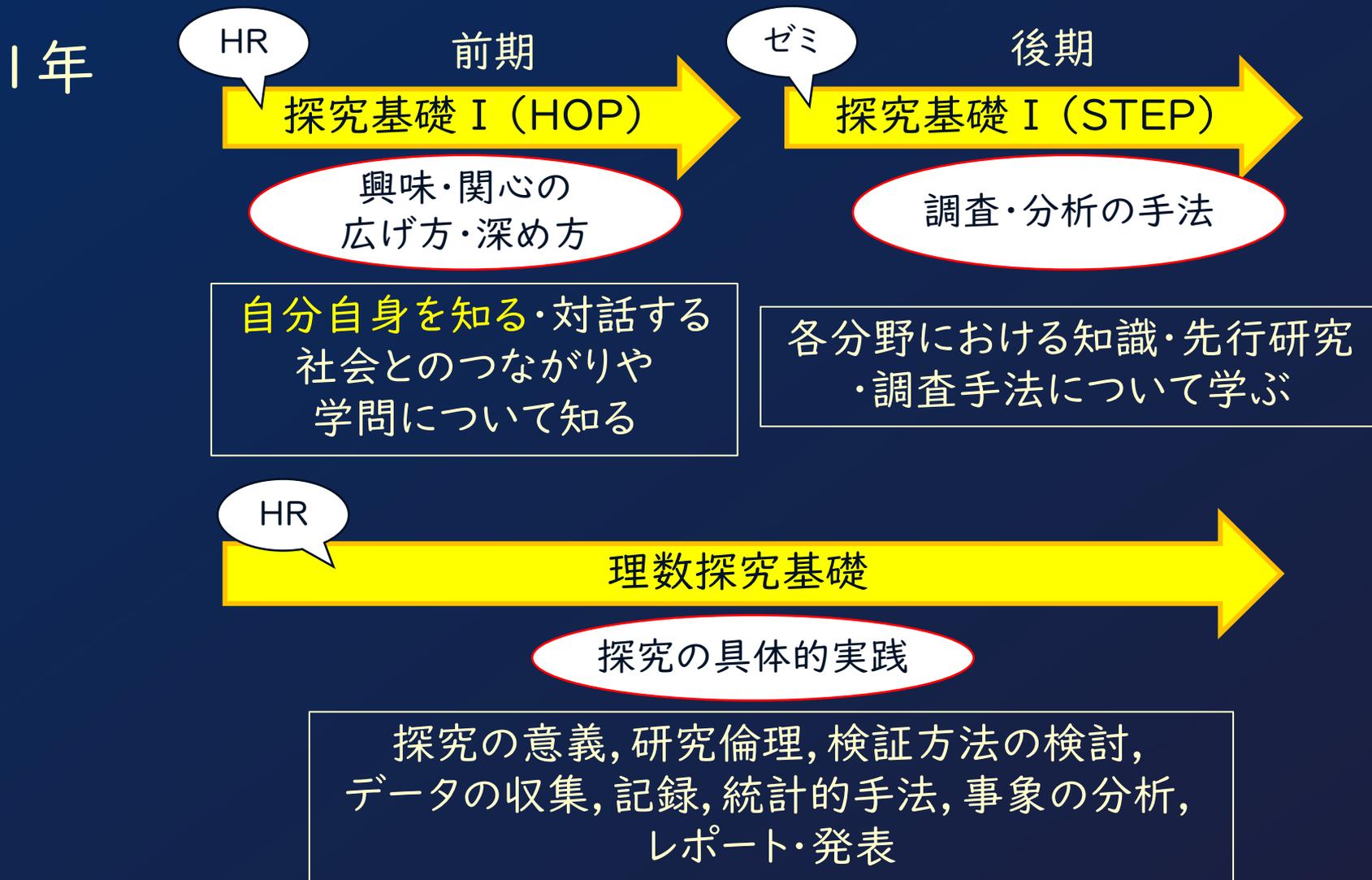
「探究基礎」JUMP
少人数講座(ゼミ)
個人研究

「探究基礎」AcaPro
個人研究の継続
グループ研究
後輩の指導

授業時間数減



新カリキュラム探究基礎の構成



2年

ゼミ

前期

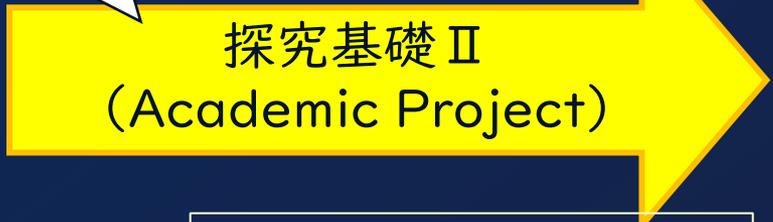


個人研究

課題設定
 知識・技能の活用
 論理的・多面的思考力
 対話・表現

ゼミを解体

後期



必修選択

- 個人研究の継続
専門性を高める
- グループ探究
協働性を高める
- 後輩の指導
学びの汎用性を高める

JUMPまででつけた力の振り返りと活用

3年



選択

個人探究・主体性の発揮
積極的に外部評価を受ける

講座編成



専門的なアドバイスを受けるとともに、生徒が研究者を身近に感じる機会になっている。



ゼミ (STEP・JUMP)

普通科 (火曜8ゼミ)		探究科 (水・木9ゼミずつ)	
言語・文学ゼミ	国語	言語・文学ゼミ	国語
社会科学ゼミ	社会	人文社会ゼミ	社会
人文科学ゼミ	社会	国際文化ゼミ	英語
国際文化ゼミ	英語	物理ゼミ	理科
スポーツ・生活科学ゼミ	保体・家庭	化学ゼミ	理科
物理・地学ゼミ	理科	生物学ゼミ	理科
生物学・化学ゼミ	理科	地学ゼミ	理科
数学・情報ゼミ	数学	情報科学ゼミ	数学・情報
		数学ゼミ	数学



1年前期HOP

4月 5月 6月 7月 夏休み 8月 9月



自分自身の興味・関心の
広げ方・深め方を知る

課題設定・調査・検証を試みる

自身の変化を
言語化する

自身の興味を言語化する
対話の有用性を知る
さまざまな学問を知る
身近な物・事の仕組み
自身の無知を自覚する
論文に触れる

教員や外部の人の課題の
変遷を聞く
調査・検証を行ってみる
課題設定のコツを知る
自身の興味・関心や課題
意識の変化
試行錯誤・紆余曲折を
楽しむ

発表準備・練習
夏休みの過程を交流

発表会

探究ノート



1年通年 理数探究基礎

課題設定はある程度教員がおこない、
その先の探究の過程でどのようなことが必要に
なってくるのかを実際に経験しながら学ぶ。

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月





1年後期STEP

前半

各分野でよく用いられる調査手法や必要な知識・情報を手に入れる方法を学ぶ。

後半

2年前期JUMPの個人研究に向けた課題設定にとりかかる。

10月 11月 12月 冬休み 1月 2月

輪読、文献探し、実験
教員が設定した課題など

アレポ提出

JUMPの課題設定
に向けた予備調査
など

コレポ提出

探究ノート



2年前期JUMPの流れ

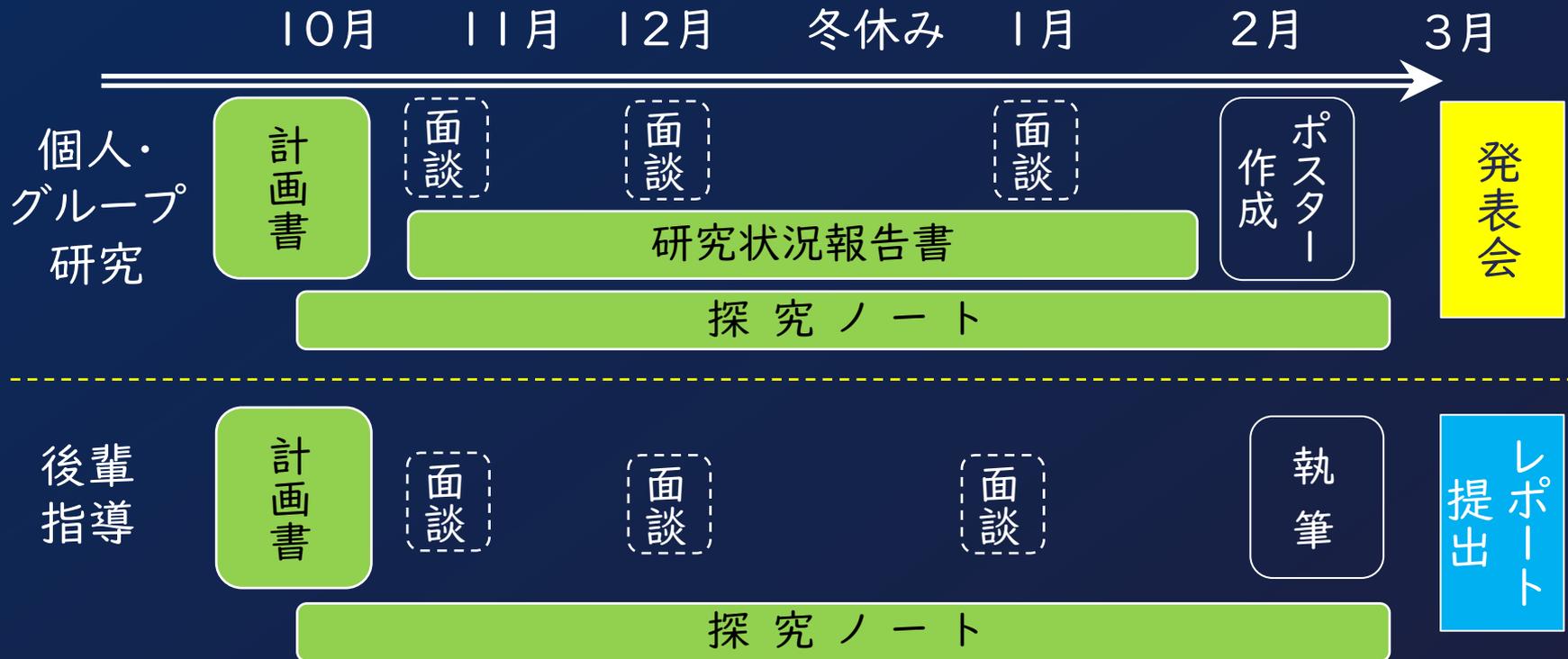
教員やTAとの面談、探究ノートのやりとりをしながら、生徒が個々の計画に基づき活動を進めるが、要所でゼミ共通の課題が置かれている。





2年後期Academic Project

ゼミの枠を解体。
生徒はより自立して探究を行う必要があり、
自身のつけた力を自覚することになる。





1年生の振り返りより抜粋

- HOPの授業で何故なのかと考える機会が多かったので、日常生活でも**何故と考えることが増え**、自分で調べるようになった。また、「こういうもの」と受け入れるより、何故なのかと考えるようになったことで自分の**興味や知識が前より広がった**気がする。
- 様々な教科で**多面的な考え方**、いわゆる多くの切り口から興味関心を開いていくというのを使って色々な面から物事を考えることが出来た。
- 「やせ方」について調べていたけど、それ関連で調べていったとき、「**なぜそうなるのか**」について探究していたときが一番たのしかった。



2年生の振り返りより抜粋

- たくさんの先行研究を読む中で、論文を読んで**必要な情報を抽出する力**が身についた
- 自分のもっている問いに対しての**アプローチ方法の選択肢**を以前よりも増やせたのではないかと思う。
- 思考力が身についたと同時に、実験の目処を立てる力も身についたから、**先を見通す力**を活かしていきたい。
- **考えて文章にする力**は伸びたと思うので、そこを活かしてわかりやすい表現を使っていくことを心がける。
- 学年の中でこの分野（自身の探究テーマ）を**語れるのは私だけだ**という自信ができた。



その他の取組

(講演会、生徒組織)



各種講演会

ホンモノに触れ、高い目標をもつ。
文理を問わず、幅広い教養の必要性を感じる。

- 研究者を含め、さまざまな分野で活躍されている方の講演会を主に学年単位で実施

(LHRなどの時間を利用して年数回)

- 令和5年度は

合田哲雄(文化庁次長)

小阪健一郎(国際山岳医)

鳥谷敬(元プロ野球選手)

町田奈緒士(名古屋大学特任助教) など

生徒組織

リーダー性、協働性を高めたり、状況の変化に臨機応変に対応する力を養う。

●探究基礎委員会

探究基礎の取組を学年全体で交流したり、振り返りしたりする催しを企画、運営する。

●学校説明会スタッフ

中学生向けの学校説明会の運営や各説明ブースの内容を企画し、実行する。

●探究道場スタッフ

中学生向け探究活動ワークショップの企画・運営をする。



探究基礎の生徒振り返りより

- 学校説明会の準備において前まではグループの長が言っている意見に対し自分の意見を抽象的にしか伝えられなかった。だが、だんだんと自分の意見をより具体的にしてから意見を述べることができるようになった。また、その速度が上がった。
- 自分の思っていることを言語化する作業が今まではとても難しく、相手に伝えようとしたことが、そのまま伝えられないというケースが多かった。しかしHOPの授業を経るごとに、言語化するということは自分の思っていることを客観視しないといけななのだ気が付いた。



進路意識

(授業アンケート、卒業生アンケート)

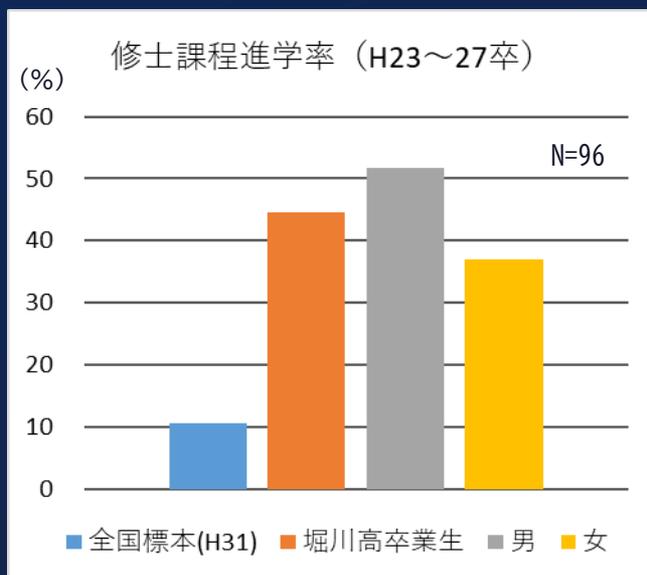
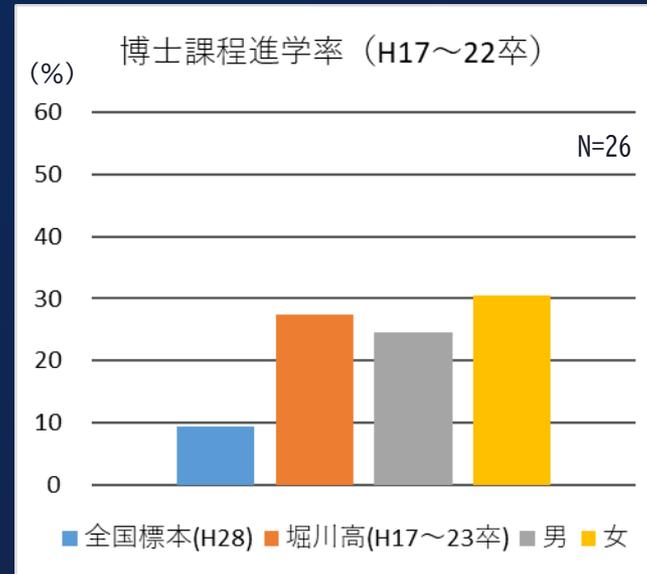
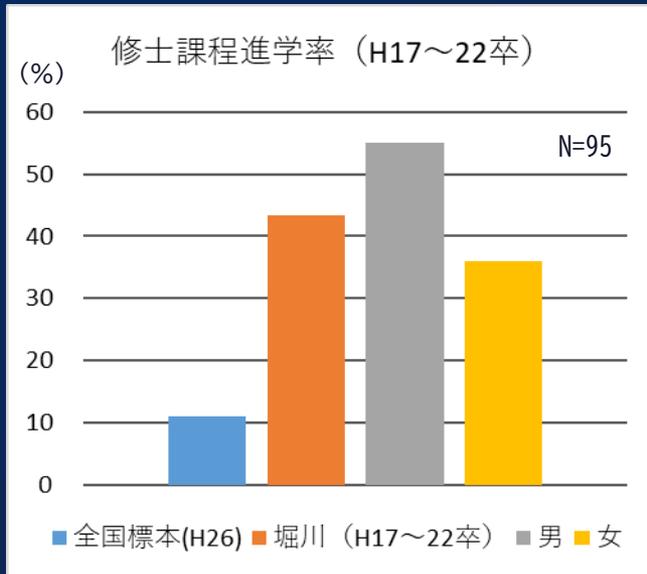


探究基礎の生徒振り返りより

- 問いを具体化するのには自分の文理選択の際に何がしたいのかを考える方法になりました。
- 自分の好きなこと、興味のあることについて以前よりも深く考えるようになったので、どのようなことが自分に合っているのか、趣味と仕事の両立(好きなことと仕事をどれほど関連されるか)などといった将来についても想像するようになった。
- 自分の考えを筋道立てて説明することが多少できるようになったため、三者面談などで説明しやすくなった



堀川高校卒業生の大学院進学率



男子は理学系以外で
修士から博士への進学率が2割未満

5年後の調査でも
修士課程への進学率はほぼ同じ